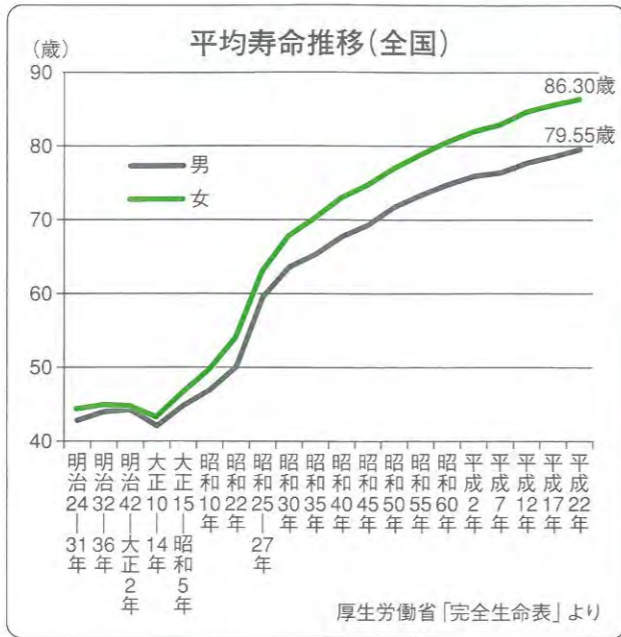


世界でも類を見ないスピードで高齢化が進んだ日本は、20世紀の後半に平均寿命が30年延び、戦前の“人生50年”の時代から“人生90年”という、これまで誰も経験したことがない超高齢社会を迎えようとしています。

人生50年の時代、「高齢期」を迎える人々はそう多くなく、50歳になった時に自分の親が生存している確立はきわめて低かったため、現在の50代が高齢の親に対する「介護適齢期」であるのとは大きく隔たっています。

丸亀市でも3人に1人の市民が高齢者という時代が目前です。超高齢社会の問題は、公的支援だけでなく地域コミュニティや市民・市民活動団体の協働で取り組まなければならない課題です。



健康寿命

一生のうち、健康で支障なく日常生活を送れる期間のこと。厚生労働省によると、平成22年の健康寿命は男性が70.42歳、女性が73.62歳。日本は健康寿命も延びています。今後も介護予防などで健康で自立した生活への努力を続けましょう。



進み続ける少子高齢化

丸 丸亀市の過去60年の人口推移をみると、急速に高齢者の割合が増えており、現在の高齢化率は23.3%です。60年前は子どもの数が高齢者より多く4.6倍でしたが、現在は高齢者が子どもの1.5倍以上に逆転しました。なかでも、85歳以上の高齢者は、昭和30年の140人、0.24%（旧丸亀市のみ）から平成22年の3,712人、3.36%まで増えています。

*総人口に対する65歳以上人口（老年人口）の割合

いづいになつても住み慣れた地域で暮らすために



高齢者の家族と世帯

丸 丸亀市ではわずか25年で、世帯総数に対する高齢者だけの世帯の割合は、ひとり暮らしが4.7%→8.9%のほぼ2倍に、高齢者夫婦のみは3.1%→9.2%と3倍近く増加しています。核家族化や高齢化が進むにつれ、ひとり暮らしや夫婦のみ高齢者だけで生活する世帯が増加し、同居世帯の割合は減り続けています。

ひとり暮らし男性高齢者の孤立化、老老介護、男性介護者への支援など、新たな課題への対応が急がれます。

介護の担い手

家 家族介護が社会問題として認識されたのは、嫁の介護負担を描いた『恍惚の人』（昭和47年刊行）でしょう。

昭和43年の調査（全国社会福祉協議会）によると、介護者の続柄の約9割が女性でした。

現在も7割近くが女性で、介護・看護のために離職や転職するのも8割強で女性の方が圧倒的に多い。

介護の長期化、高齢化、重度化への支援も必要です。

